

和

秘

陸同文

報

大正十二年九月十日

九月十日 天津軍司令部

天津軍司令部

大臣官房庚

印

印

震の次

直隸州

鄭文

天電 第三九号

吳佩孚ノ王承斌ニ宛テタル密電ニ依ルニ吳ハ日本

震ハ火ヲ以テ日本侵略主義ノ大打撃ナリトシ又

延テ安福派ノ打撃ニシテ直隸派ノ僥倖ナリト

稱シ此際日本ニ恩ヲ賣リツ、其國情殊ニ貨幣ノ

損失及陸海軍兵器材料ノ減耗ヲ偵察スヘキ

然ルヘキ代表ヲ人選セシテ陸錦、高凌霨ト相談

シ日本政友會ト日本政友會ト親善ナルモノ可ナラント

テ黃郛、谷鍾秀ヲ候補者トシツ、アリ

之レニ對シ王承斌ハ全然替入ノ意味ニテ義捐

軍務局

0736

金葉方集ヲ急クト共ニ學生ト耶蘇教徒カ此行動ヲ  
妨害セサル様注意セント答電セリ  
次長、北京 ス之

0737



陸同文

電報

次長宛

閔電 第四〇號

駐日公使 施履本 及 町野大佐 (張作霖ヲ代表シ)

屏簡ノ為ニ本八日朝奉天發 朝鮮經由ニシテ

上京セリ

大正十二年九月十日

九月八日 前四、五號 (飛行機便)

岡東軍 參謀 長

大臣官房 庚

藤田

郵

自

01

六

0738

海軍省



大坂ヨリ托送電報

大正十二年九月十日

九月六日午後四時五分發  
七日午前十時五分著

伊丹少將宛

上海電第九號

上海 小林少佐

軍務局

今國ノ震災ニ對シ謹テ御見舞申上ク

當地鮮人團概シテ平穩ナリ、今國ノ災害ニ對シテ、當地

ニ於ケル在留邦人ノ素ヨリ支那官民及外人ノ同情非常

ニシテ國下救濟方法ニ就テ盡力中ナリ

當方面ノ情況概シテ變化ナキモ湖南ニ於テハ在長沙

部隊一部譚延闓ニ響應セル為メ總司令趙恒

惕ハ九日日夜省城ヲ脱出シテ岳州方面ニ逃レ、自魯滌

平軍長沙ニ到着シ、同地ノ秩序ヲ維持スルヲ譚延

0739

闔天入城 凡ル筈ナリト 將來 長江方面ノ 形勢 多少ノ  
變化アルヘシト 察セラル

0740

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

軍務局

又差支十万人生半一千頭ヲ帝室ニ献上ス  
昔總領事ニ申出ツ

閣下參謀次長宛  
張作霖公災害救済トシテ麦粉二萬、貼價(十四萬)

陸 同文  
電 報

大正十二年九月十日  
九月一日 不明

關東軍參謀長

大臣官房

藤田

七

七

七

七

七

0741

70

軍務局

至急 陸同文

大正十二年九月十日

九月八日午後五時十五分發  
九月九日午後六時十五分着

參謀次長宛

關東軍參謀長

管内情況、南滿州ニ於テ支那言論界一部ニ於テハ

一、此機ヲ利用シテ帝國奸商ト結ビ日本經濟界ノ根

本的動搖ヲ宣傳シテ金票ノ暴落ヲ計リ或ハ社會

革命ノ勃發ヲ云々シテ民心ノ不安ヲ煽ルモノアリ

二、北滿殊ニ哈爾濱ニ於ル白系露人ハ概シテ深甚ノ

同情ヲ表セルモ赤系ハ帝國ノ勢力ヲ失墜シ財界ノ

破滅ヨリ極東政策ノ大打撃ヲ豫想シ大ニ樂觀

シツキアリ

(續ク)

大臣官房

藤田

0742



至急

電

報

九月七日 五五分 大坂着

閣東軍參謀長

閣内情况一、  
閣參多發第一三六號

軍務局

今回ノ大震災ニ對シ

一、情况不明誤電多ク一時民心ノ不安ヲ來セシモ  
該シテ南滿州ハ漸次民心平穩ニシテ同情急如  
トシテ佳本マリ日支人共ニ救済ノ方法ニ努力シツツ  
アリ

二、日本銀行、正金銀行全滅ノ報ニ依リ經濟界ハ  
一時大動搖ヲ來タサントセシモ南滿州ニ於テハ  
日支官憲ノ取締リヨリ一時共ノ擾亂ヲ防壓

大臣官房

藤田

東

映

0743



シツ、アルモ銀票ハ暴騰ヲ來シツ、アリ、其他建築  
材料及食糧品等ハ今後若干ノ騰貴ハ免カ  
レサルヘシ

三、支那側ノ同情ハ多大ニシテ奉天省ハ二十萬元ヲ  
支出セリト又張作霖ノ故濟ハ関參榮等  
一三四号ノ如シ

四、不逞鮮人及主義者ニ對シテハ目下相當警戒  
戒シアルモ大ナル異状ヲ認メス  
五、北滿方面ハ情況特ニ不明ノ為メ民心不安、財界  
ノ動搖稍大ナルモアルカ如シ 委細後報。

0744



軍務局

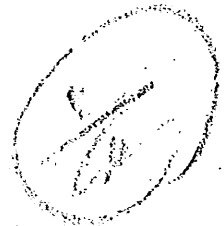
大正十二年九月十六日午後九時四十分  
軍務局  
夜設

海軍 鹽濱 官

第三戰隊司令官

当方面暴動發生云々、千葉縣知事、  
神奈川縣知事宛、電アリ、云々、当地附近  
極メテ平穩ニシテ秩序ニ漸次恢復シ

ツツアリ  
爲念報告ス



0746

軍務

軍務局

大正十二年十月上旬

震災地に関する情報抜萃

水路部 第三課

0747

## 震源地

九月二十日午前十一時五十八分の大震動の震源地に關し

圖に示せる如く

帝大地震計は十の位置を示し

氣象台地震計は三浦半島附近の海底を示し

農商務省地質調査所は十の位置として發表せり

而して地震計の示す所と陸上調査とより推定したる帝

大及び氣象台の發表によれば震源地は未だ明確から

ざるも結局圖中の或は四の線帶が今回大地震の本震帶

之の沿ふて縦或は横に大なる亀裂を生じて土地陥没せるか或

は断層を生じたるものあらんと云ふ

要するに位置は不分明なるも震源の海底に存する事は疑

なきが如し

図中(ハ)は其後無数の餘震を起せし地震帯にして(ロ)と共に此の附近の地震帯として豫知せるものあり

備考 安政二年十月江戸大地震の震源は(ハ)地震帯の

中川流域にありたりと云ふ

第一次行動に於て軍艦大和が沖の山北方に於て得たる海  
圖より深き一鍾は前記氣象台地震計及地質調査所の発  
表震源位置と密接なる関係あるは非ざるか又水産講  
習所天鷗丸は沖の山南方に於て海圖より浅き二鍾を得た  
りと云ふを以て沖の山の深淺は疑問ある可し

震源位置並に陥没或は断層の何れなる哉又其の程度及び  
区域等に関し學者の憶説区々にして定まらず地震學  
者の權威を疑はしむるも抑も地震學なるものが幸田露伴  
の所謂未だ鶏の卵の如き時代のものなるに拘らず之れに鶏鳴

を強ふるは無理至極の事ならば結局最後の断案を下す鍵は水路部が握れるものと謂ふ可し従つて此度の鉦測結果は這般の大災害を与へたる根元を究むる重要資料にして地震学者を中心として諸学者が発表の一日も早からん事を切望しつゝあり

### 震動区域

震動の強弱は震源地よりの距離及び地盤に關係するを以て多少の例外あれども最激震区域は相模灣の北東部沿岸三浦半島房総半島南部にして山津浪を起し土地の崩潰小亀裂等を生じたり

強震区域は伊豆の東岸東京府神奈川縣千葉縣埼玉縣及び静岡縣の一部

### 地形の變動

0750

一房総半島

小湊より野島埼に至る迄土地多少隆起（水路部）

松林名

野島埼燈台は根元より折れて海中に沈没（日日新聞）

野島埼より布良に至る間長さ一千米突程の山崩れあり

（軍艦阿蘇）

野島埼より鋸山に至る間尚崖崩れ数多あり

洲の埼燈台破壊附近の土地約五六呎隆起（水路部）

第二第三海堡は大部分陥没崩壊（日々）詳細は大谷水路中依

報告よ在り

館山湾沿岸崩潰亀裂多少あり湾底幾分隆起して暗礁

岸線等に变化を来せり（報知）

明金埼より木更津に至る間大なる変形なきも土地一帯に隆

起して漁港に多少の浅水を来せり（報知）

一東京湾内部



東京下町家屋全滅

森ヶ崎の地盤三尺餘低下(報知)

羽根田燈台少しく傾斜(水路部)

横浜海岸の岸壁防波堤等崩壊沈下多し(水路部)

本牧の鼻及び十二天鼻は全潰し防波堤燈台大破し海岸

通り家屋は全滅(報知)

一、三浦半島(一帯に土地隆起)

横須賀附近土地約二呎隆起し之北より以南崖崩多し(水路部)

観音埼燈台傾斜

剣埼燈台半面倒壊

三崎附近土地約五呎隆起

三浦半島西岸崖崩多し

城ヶ島燈台全く倒壊

(水路部)

一 相模

鎌倉地方由比ヶ浜材木座及び七里ヶ浜の海岸隆起し沖合十  
数町に至る迄遠浅とある(報知)

江島は約二呎隆起(水路部)

厚木には断層と思はれる程の大亀裂を生じたり(気象台)

平塚より小田原に至る間無数の山崩あり(報知)

一 伊豆

初島真鶴埼端等の隆起は最も甚しく七八呎に及ぶ

(水路部)

熱海附近崩壊多し

伊東より以南の沿岸は土地多少低下せる傾向あり南下する

に従いて被害は減少し下田に至れば僅少とある(水路部)

伊豆大島に於ては九月二十六日午後五時の地震は九月一日のもの

より被害甚し元村より乳ヶ崎燈台に至る間崩壊数ヶ

所あり(水産講習所)

波浮港幾分流下の疑ひあり(村長の言)

備考 十月上旬水路部発表の震災災地附近沿岸及び沖合の水深

測量の成果を参照す可し

平均水面に関して

大震の爲め土地が急激なる隆起或は低下を現出したる後少量な  
れども緩除に此の現象を持続する事あるを以て三浦半島の調  
査をたきんが爲め主として横須賀工廠の驗潮より毎日の平均水面を  
調査したるに本年九月の毎日の平均水面は一呎内外の高低を有す  
る波状をふして変化せるを見出したり而して此の变化は研究の結  
果主として風及び氣圧の氣象的原因の爲めに起りたる現象にして土地  
の隆陷作用の爲めに來れる該平均水面の变化は頗る少量なる可し  
と判断せり数量的決定は後日発表の豫定あり

0754

## 備考

毎日の平均水面の変化は風気圧等の気象的原因を除いては土地の隆陷作用より来るものと見做すことを得るなり

九月一日大震の爲め横須賀に於ては平均水面急激に約二呎低下せるを認めたるが是れ同量だけ土地の隆起を意味するものあり

横須賀港海水は颶風接近する時は潮汐と別に一呎以内の隆起或は低下を来すと共に週期七分、二十三分、三十分の三種の小昇降作用あり而して九月は毎年颶風期あるを以て他の各月に比し此の作用著し

### 津浪のありし所

津浪は東京湾内では概して三呎程度のものでして横須賀工廠では五呎位なり(水路部)

最も烈しかりしは熱海真鶴の二十呎伊東の十五呎鎌倉十呎を筆

頭に相模湾の西隅が一般に高かりし模様なり。房州にては洲崎の二  
十呎相の兵の十二呎を筆頭に館山湾にては十呎餘の津浪ありたるの  
みにして外房州九十九里兵には九月二日の強震にて津浪を生し相  
當被害ありたる模様なり(気象台、帝大生視察談)

備考

震源が海底にありとし震度大なりし割合に津浪の影響音

少々かりしは此地方が三陸地方に比し奥深くして津浪の起  
り易き港湾に乏しき爲ありと思惟す

参考事項

理科大学生某は真鶴に於て左記の事実を聞知せり

○一帆船永通丸(七十五噸)は九月一日午前七時頃江の島の南方五六  
哩の沖合に於て猛烈なる渦巻に遭遇し操縦困難に陥れりと

○二大震直後房州より真鶴に帰航せる帆船は相模灘に於て一面

に泡が噴出し海底が抜け落ちたるのではあきやの気味悪き感  
を抱けりと云ふ

水路部長は大震當時三崎在住の依藤海軍中將より左記の  
事実を聴取せり

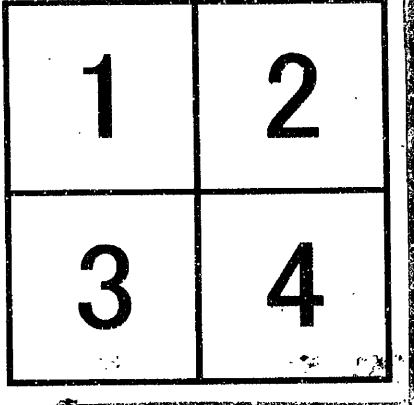
一長井と眞鶴埼とを結ぶ線上の約中央より東に寄れる地点に出  
漁中の漁夫の談によれど該線以北に於て地震當時渦巻起  
り大に困難せりと云ふ

二大震當時城ヶ島南方に於て多数の深海魚浮き上り之を捕獲  
せりと云ふ

大震當時武蔵は洲の埼の南三四度西約八哩の地矣に於て前後  
二回の激動を感じせり又膠州も(場所不明)當時艦の行足の瞬時止  
まりたるかの如き「ショック」を感じたり  
水産講習所天鷗丸施測の結果発表せる所尤の如し

測深箇所 館山湾内に於て十一ヶ所 相模湾内三十五ヶ所に於て  
其位置及び水深は別図に示すが如し要するに測深箇所少く  
して海底に於ける変化の状況を詳にするを得ざれども相  
模湾の海岸附近及び館山湾は一般に海底隆起し相模湾の  
中部は東西約五哩南北十八哩に亘りて少くとも四十尋以上  
陥落せるもの如く思惟せらる

# 分割撮影ターゲット

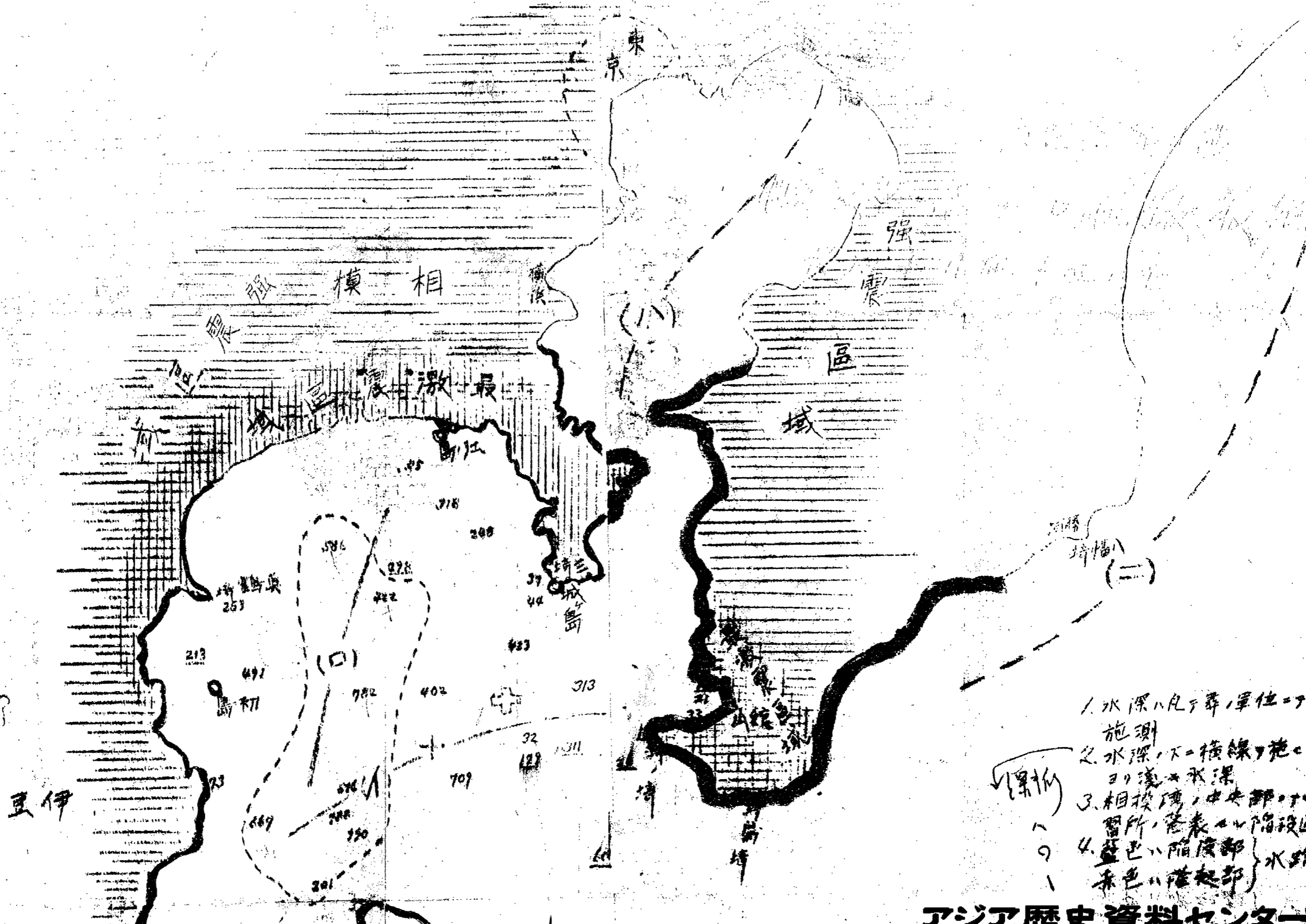
分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	



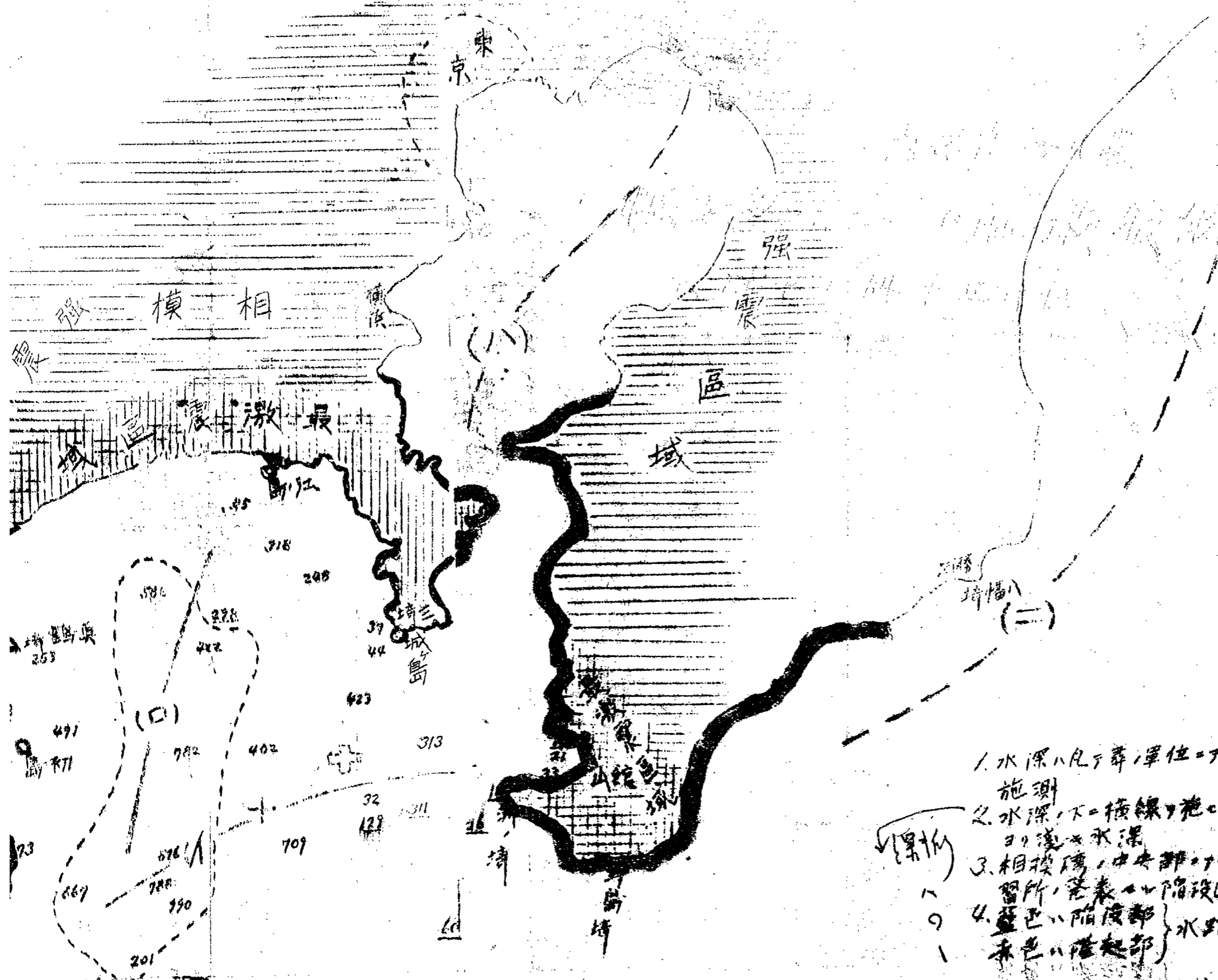
8758

0751  
0752

震災地附近変動圖  
 (部外三発表資料より)

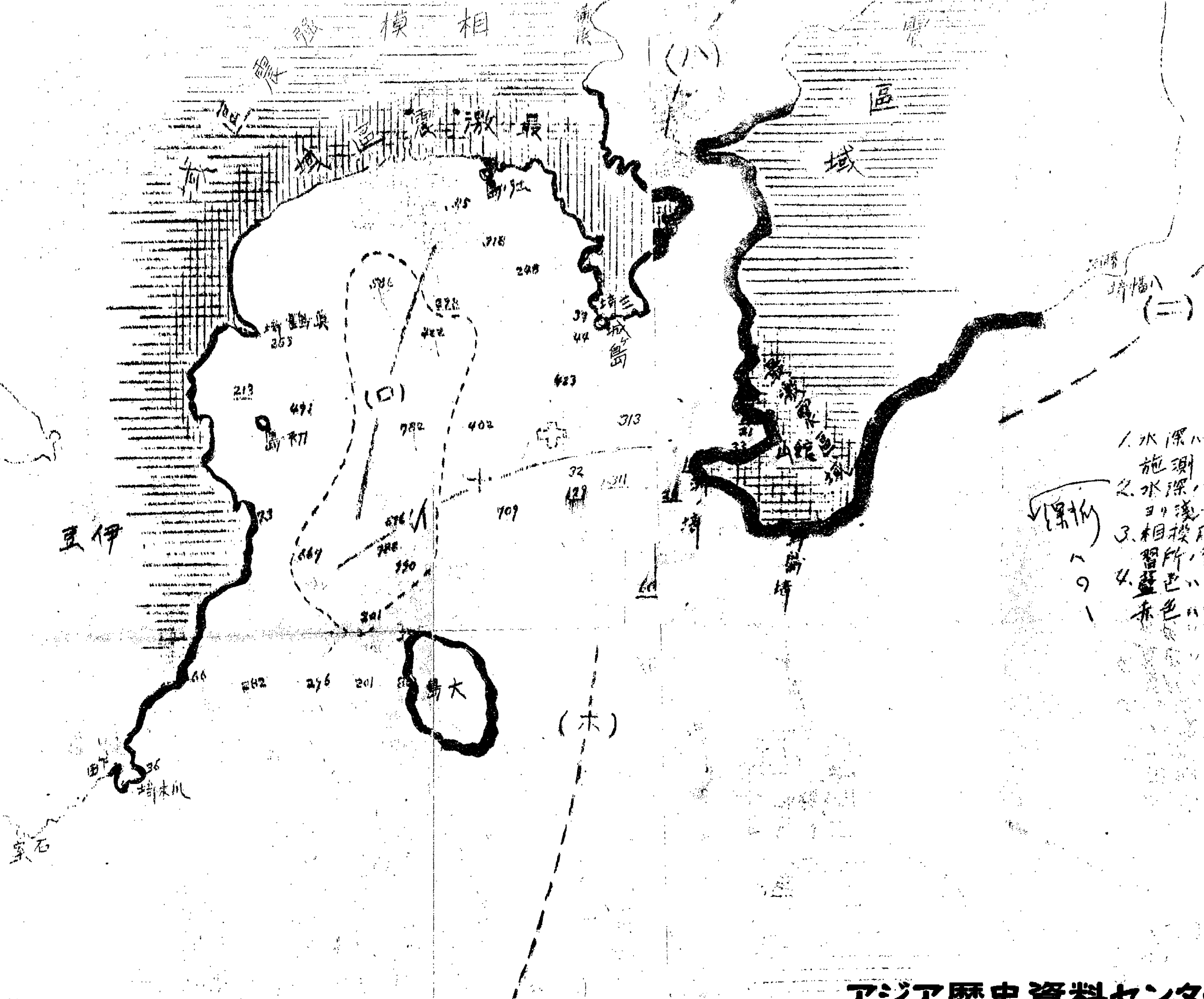


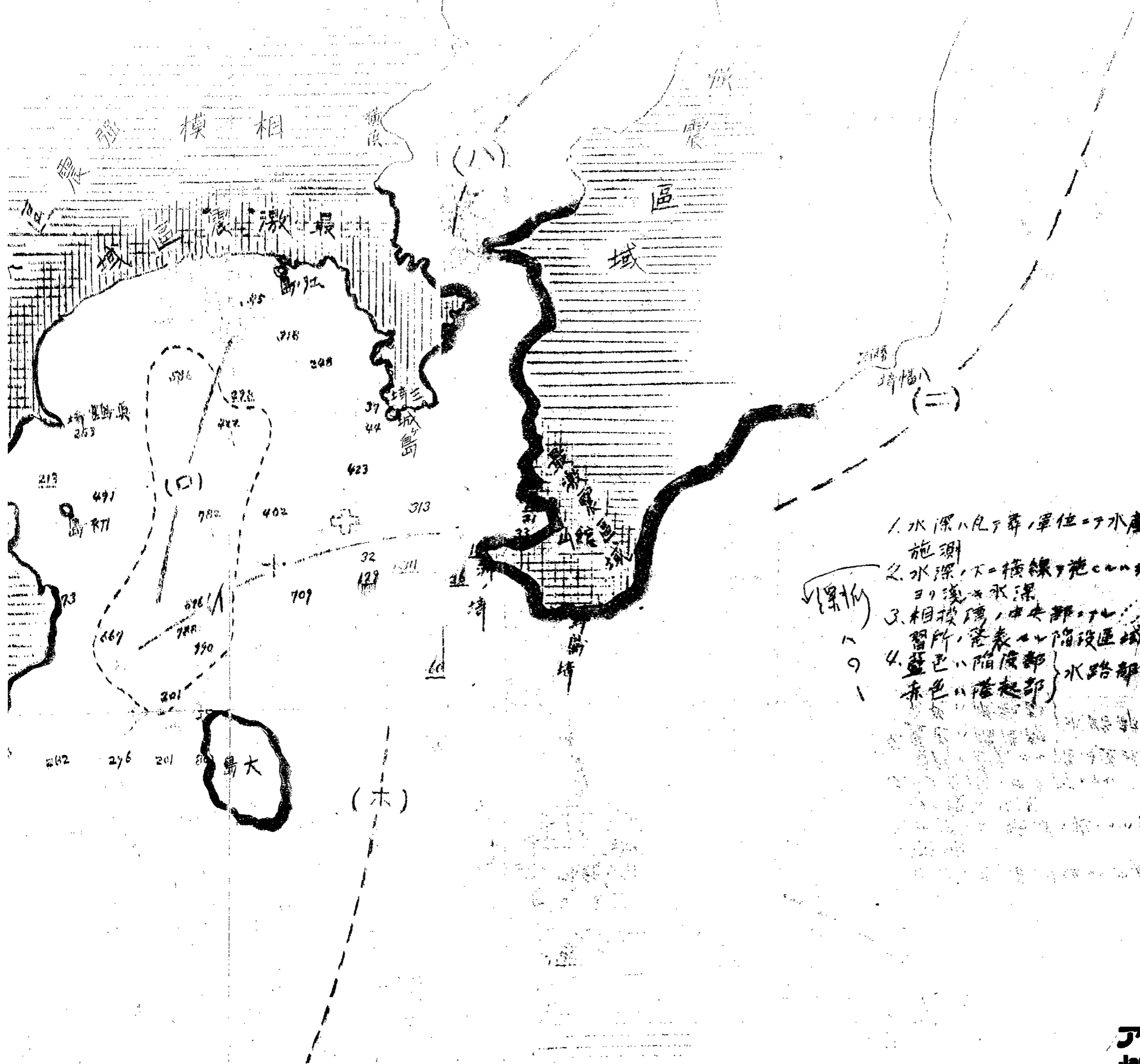
1. 水深ハ凡テ尋、單位=マ
- 施測
2. 水深、下=横線、港c
- ヨリ淺\*水深
3. 相模湾、中央部、t
- 習所、港表、階段區
4. 藍色ハ階段部 } 水路
- 赤色ハ港起部 }



1. 水深ハ凡テ岸線単位ニテ水産講習所ノ  
 施測  
 2. 水深ハ下ニ横線ヲ施シテ海図  
 3. 相模湾ノ中央部ニテハ水産講習所ノ  
 4. 藍色ハ陥没部 水路部ニテ  
 赤色ハ隆起部

八尾附近変動圖  
 (部外発表資料中心)





1. 水深ハ凡テ等、單位ニテ水産講習所、  
施測  
2. 水深、下ニ横線ヲ施シ、現行海圖  
ヨリ淺キ水深  
3. 相模湾、中央部ニテ、水産講習所、  
発表ニシテ階段區域  
4. 藍色ハ階段部、水路部ニシテ  
赤色ハ隆起部

大正十二年十月上旬

震災地に関する情報抜萃

水路部第二課

0763

警務局

大正十二年十一月十九日

第一課  
第二課

内務省警保局

戒嚴令撤廃後ノ概況左ノ如シ

一、警視廳管内

戒嚴撤廃後ノ民情ニ関シテハ嚴密ヨリ意中ナルカ

一般的ニハ何等特筆スルキモノナク唯一部ノ資産

階級ニ在リテハ幾分危懼ノ念ニ駆ラレ居ル模様

アルモ不安ヲ感スルカ如キ程度ニ在ラス尚犯罪叢

生狀況及要視家人ノ行動ニ関シテモ特記スヘキ

モノナシ

一、神奈川県管内

0764

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

戒嚴令撤廃後ニ於ケル準十箇ニ付テハ豫テ特ニ留  
意シ警邏査察ヲ嚴重ニ勵行シ居ルモ一般民衆  
ニ在リテハ撤廃サヘ知悉シ居ラサルカ如キ状況ニテ從  
來ト同極歎ルニ半節ナリ犯罪発生状況要視察  
人行動ニ契シテモ特記スヘキモノナシ

0765

十一月六日状況報告概括

警視廳警戒司令部

避難民ノ状況

第一課

避難民ノ焼跡ニ復皈スル者漸次増加シツ、アルハ前報ニ同シ  
 焼跡ノ焼土瓦礫ノ取片付、追々進捗シツ、アリ神田區今川小  
 路ヨリ小川町辺迄ノ電車線路ニ沿ヘル歩道ニ推積シアリタ  
 ル焼土ハ取除カレ交通上至便トナリ沿道一般營業者ハ  
 活氣ヲ呈シ來レリ然レ共該作業ハ甚ク遅クニシテ今  
 尚裏通ノ如キハ殆ト手ニ着カサル状態ニテ裏通ニ復皈ノ  
 小商人ハ之カ爲ニ營業甚ク不振ニシテ困難ナルノミナラス  
 生活上ノ不安ヲ感シ居ル者甚クシ

0766



亀戸署管内ニ於ケルバラック及寺院等ニ收容セル避難  
民ニシテ本所花町、深川富川町方面ヨリノ避難民ノ多クハ  
殆ト毎夜外ヨリ飲酒ニ來リ、行動粗野ナルヲ以テ寺院ヨリ  
ハ斯ル者ヲ置クハ迷惑ナリトテ町役場ニ引取方ヲ申請シ  
來レリ又バラックニ於テモ他ノ者ヨリ苦情多ク爲ニ町吏  
員ハ之等ニ對シ相奮警告ヲ祭シ居ルモ何等反應ナク余ク  
持テ録シ居ルノ状況ナリ

明治神宮外苑バラック避難民ヨリ成ル自治會ニ於テハ本  
月三日ヨリ全所ニ職業紹介所ヲ設ケ主トシテ労働方面  
ノ紹介ヲ爲シ一面避難児童百五十名ヲ教組ニ別テ各組  
ニ監督員ヲ附シ市内各所ニ於テ國旗及菓子等ノ行  
商ヲ爲サシメ又養老会ナルモノヲ設置シ六十歳以上ノ老  
人ヲ集メ宗教的ノ見地ヨリ安心ト慰藉籍トヲ興フルノ方法

0767

ヲ講ニ居レリ

本所被服廠跡ニ於ケル佛教联合会、日蓮宗、神道聯合会、三派ト東京市ト、紛争ハ其ノ後市公園課長、本所區長等、斡旋ニ依リ納骨堂前參道ノ右側ニ各出張所ヲ設クルコト、ニ解決ヲ告ケタリ

尚全被服廠跡ニハ獨身者ヲ收容スル予定ノ趣ニテ目下バラックノ工事中ナリ

### ニ職業紹介ノ状況

一昨四日ノ職業紹介状況ヲ見ルニ市設職業紹介所十ヶ所府設紹介所六ヶ所ニ於ケル求職者総数五千五百十六名ニ對シ就職者総数四千五百八十三名ニシテ不就職者九百三十三名ヲ出セリ

0768

三犯罪

檢拳セル天ノ

賭博 全 全 竊盜 傷害 賭博 全 全 竊盜 賭博

一 一 二 一 一 一 一 二 三 一

全 寺島 巢鴨 谷中 全 全 坂本 上野 四谷 日比谷署

計 十四

被害(未検挙)

盗難

九

日比谷署

全

四

愛宕

全

三

四谷

全

四

東鴨

嬰兒遺棄

一

坂本

計 二十一

尚近時焼失ヲ免レタル市部並ニ隣接郡部ニ於ケル各浴

場ニ入浴者激増シタル結果 盗難(板ノ間祿ギ)増加ノ傾

向アルヲ以テ警戒取締中ナリ

0770

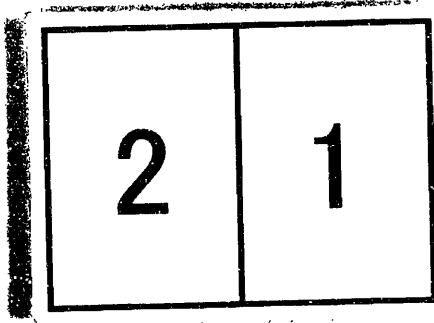
四衛 生

昨五日發生ノ傳染病患者ハ市部ニ於テ赤痢(疑似ヲ含ム)十名、腸チフス三十四名、郡部ニ於テ赤痢(疑似ヲ含ム)五名、腸チフス十八名ニシテ赤痢腸チフスヲ通シ比較的マキハ市部ニ於テハ淺草區ノ十四名、深川區ノ六名、麴町芝西區ノ各五名、郡部ニ於テハ北豊島郡ノ十二名、荏原郡ノ五名トス

0771



# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	









春日 概 復 直  
 没ノ 概 知シ 九 州  
 方 初、 社 等  
 附 令 ソ 某 以 心  
 ヲ 行 ト 云

第一課

第一課 山梨縣

犯罪被害及檢舉件数表 (大正十二年九月十月中)

罪名別	發生件数	前年全期ト比較		檢舉件数	未檢舉件数
		増	減		
公務執行妨害	1		1	1	
逃走	1			4	
放火	3	2		2	1
失火	7		3	7	
住居侵入	2		3	9	
往來妨害	1		1		
文書偽造	2		5	4	
有價証券偽造	1		6		
印章偽造	1			1	

0775

暴行	傷害致死	傷害	殺人未遂	嬰兒殺	殺人	瀆職	常習賭博	普通賭博	姦通	強姦致傷	偽證
二	二	二四	一	一	二	一	六	七	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	四	一	一	一	一
一	一	九	二	二	一	一	一	一三	一	一	一
四	二	三四	一	一	一	一	一	一	二	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

0776

詐欺	準強盜	掬模	竊盜	業務妨害	名譽毀損	誘拐	遺棄	墮胎	過失傷害 <small>業務上</small>	過失致死	過失傷害
一三	一	一	七二	一	一	一	一	一	二	一	一
、	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九七	一	三	一六一	一	一	四	一	三	三	一	一
五三	一	一	一三五	一	一	一	一	一	二	一	一
二	一	一	二五	一	一	一	一	一	一	一	一

0777

計	管 迫	損 害	毀 棄	賍物 牙保	賍物 故買	流物 横領	拾得 横領	業務 横領	横 領	恐 喝	背 任
一六一	一	二	一	二	一	二	三	一	五	二	一
一三	一	二	一	一	一	二	一	一	一	一	一
三七二	一	一	二	一	三	一	一	一〇	二八	二	三
三二七	一	四	一	二	二	二	一四	二	一八	三	一
三〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

0778

## 備考

一 発生件数ハ十月三十一日迄ニ届出其ノ他ニヨリ発生見シ得タル被害件数ヲ計上ス

二 前年全期トノ比較ニ於テ前年全期間ノ発生件数ハ本年十月三十一日迄ニ於テ発見シ得タル発生件数(前年全期間ニ於テ)ヲ計上シタリ

三 検挙件数ノ発生件数ヨリマキハ検挙件数ハ本年九月一日ヨリ十月三十一日迄ノ間ニ於ケル全検挙件数ニシテ内ニ九月一日以前ノ犯罪及他府縣犯罪等ノ含ムレ届ルニヨル、

四 未検挙件数ハ発生件数中十月三十一日迄ニ検挙ニ至ラサルモノナリ

0279

※

上

0780

**アジア歴史資料センター**

**Japan Center for Asian Historical Records**

<http://www.jacar.go.jp/>

大正十二年十月中犯罪表

刑事部

罪名	被害件数	捕拿人員	検挙件数	前年			同期		
				被害件数	捕拿人員	検挙件数	被害件数	捕拿人員	検挙件数
公務執行妨害	2	3	4	2	5	2		x 2	2
逃走	2	4	4				2	4	4
放火	5	11	14	6	5	3	x 1	6	11
失火	4	10	9	20	19	19	x 16	x 9	x 10
家宅侵入	6	22	25	11	15	11	x 5	7	14
通貨偽造				22	2		x 22	x 2	
文書偽造		12	9	7	14	17	x 7	x 2	x 8
有價証券偽造		2	2		6	5		x 4	x 3
印章偽造			1	2	1	1	x 2	x 1	
証告	1						1		
猥褻	3	13	11	15	20	17	x 12	x 7	x 6
賭博	78	602	159	147	745	168	x 69	x 143	x 9
札料所燬墓		1	1	2			x 2	1	1
贈賂	1				11		1	x 11	
殺人	3	8	3	16	21	17	x 13	x 13	x 14
傷害	52	173	52	137	197	124	x 85	x 24	x 72
過失傷害	13	54	47	34	44	37	x 21	10	10
竊取	1			2	3	1	x 1	x 3	x 1
逮捕	1	1	3				1	1	3
會魚	2	7	7	1	2	2	1	5	5
畧取誘拐		1	1	9	19	15	x 9	x 18	x 14
名譽	1	2	2	6	9	5	x 5	x 7	x 3
信用業務		13	4					13	4
窃盜	1521	1597	2141	3142	722	975	x 1621	875	1165
強盜	1	8	6	21	15	7	x 20	x 7	x 1
詐欺	51	159	204	343	422	440	x 292	x 263	x 236
恐喝	2	11	9	16	13	10	x 14	x 2	x 1
横領	78	246	405	274	344	412	x 201	x 98	x 7
贓物	5	27	32	6	25	13	x 1	2	19

0781



罪名	被害件数	拘拿人員	検挙件数	前年同増			同増		
				被害件数	拘拿人員	検挙件数	被害件数	拘拿人員	検挙件数
強盗隠匿	3	5	9	5	8	7	2	3	2
合計	1837	2988	3164	4246	2687	2328	2423	699	3230

備考 一、本表の同期増減欄、×印は減を示し、無印は増を示す  
 二、本表被害件数は十一月二十日迄を判明せし十月中の犯罪事件を計上す。

諸法令諸規則違反者調

銃器令	銃砲火薬 類取締令	出版法	狩猟法	古物商 取締法	電氣 事業法	畜舎 取締規則	森林 取締法	利根 取締法	取締 法	注意 計
2	2	33	4	9	1	1	168	16		184



秘

電報

參謀次長宛

大坂第四十二號

市電第四十號轉電

軍務局

滯

我船務無線電信ハ支那各地無線ニ傍受セシ不逞解  
人行動等支那内外新聞等ニ發表セシ地方政  
宣傳ノ材料ヲ與ヘ注意ヲ要スル事アリ相當ノ取調ハ  
ヲ要スルモノト認ム

電報只果不逞解人ニ電報ハ無線電報ハ  
右ノ内海軍ガ通信者トシテ構構甚クハ  
及船務自身ノ是電ナリ

大正十二年九月十七日

九月十五日午前九時十分著

大坂河本中佐

0783

果鑄利兵丸打也

九月廿五日午前八時中隊了解

各地方長官宛

内務省警保局長宛

東京附近ノ警号ヲ利用シ朝鮮人ハ各地ニ放火シ

不逞ノ目的ヲ遂行セントシ現ニ東京中内ニ程ノ煤油

彈ヲ貯蓄シ石油ヲ注キテ放火スルモノアリ既ニ東京中内

ニハ一部戒嚴令ヲ施行シテハ勿故ニ各地ニ程ノ煤油

密ニ視察ヲ加ヘ朝鮮人ノ行動ニ對シテハ嚴密ナル取

締メヲ加ヘラレタリ

徳海軍司令部宛

九月廿五日午前八時三十分了解

朝鮮總督府警保局長宛

内務省警保局長宛

東京附近ノ警号ヲ利用シ在留朝鮮人ハ放火投擲等

其地ノ不逞ノ手段ニ出ストスルモノアリ既ニ東京中内ニ一部

機密

此電報ヲ付録  
ニモウセヨ  
二日ノ午後  
ト現候又都府  
ノ家人ノ印家ハ  
斯ル如カリシヤリ  
事後ニ他地方  
人ニ及スニ及サ  
ル

所屬令ヲ移シ其ノ以テ其ノ所屬令ノ解人ノ事務  
ニ付テハ最モ重ク取扱フ加ヘテ且内地位本ヲ阻止スル  
抑留配市徳大領事

皇領司直光

九月三日午時一〇分

山口物知事

内務省参事

東京市対面露骨ヲ利用シ内地在留解人ハ不逞ノ行  
動ヲ取テセントシ理ニ東京市内ニ於テハ投出サシテ操縦  
ヲ投擲セントシ類ニ沈毒レソハムヲ以テ既ニ東京市行ト  
ニ一部所屬令ヲ移シ其ノ以テ其ノ所屬令ノ解人ノ事務  
ニ付テハ最モ重ク取扱フ加ヘテ且内地位本ヲ阻止スル  
抑留配市徳大領事

富井納

0786

○ 九月廿一日午後八時二十分

船橋ノ夜電

勝兵二十名七時半 船中 船ノ任ニリキマアリ 船中 船人  
不穩ノ時

○ 九月廿一日午後八時二十分

横濱牛島十三行軍紙 梅軍ノ目録

如シ  
廿一日午前十一時横濱著陸ノ由船一状没報先ノ要領在ノ

一 廿一日午前十一時五十分 横濱防波堤附近ノ被爆シ  
余市ノ取座倒壊シ 爆破所々ニ起リ 不逞ノ解人ノ  
救火ト相俟テ 余市片ノ海ト化シ 死傷者無シ

二 (下略)

(横濱)

0786

○ 九月三日午後四時三十分

舟橋あり

舟橋送給良ノ船中ノ上層アリ至急板橋取ル  
騎兵下中隊應援ニ来ル然ルモ未ダ来ラズ

○ 九月三日午前八時十分 全有

二十

長ノ所係中ノ目的ヲ以テ敵ヲ来セル不逞ノ騎兵ニ  
騎兵ニ書中ノ諸隊隊長ニテ發シ或中ノ右ノ兵  
ニテ判有防衛ヲ不可能ニ付約一五〇ノ騎兵多ク  
ニ取計有当而一隊中ニ右以上出兵ノ余力ナシ

○ 今夜 危急

0787

○ 九月廿五日 午時十一時五分 船務事

西段ヶ埔航定本定方申討一幸之陸戦本三七午後  
四時五分 右陸軍ハ之師兵ハ少ク

○ 六日以後一 皇親 震名特嘉ハ朝報人ニ有利ナル  
情事一ニナリ

0788

